

平成 31 年度事業計画及び収支予算について

I 平成 31 年度事業計画

戦後造成した人工林の多くが本格的な利用期を迎える中で、この豊富な森林資源を「伐って、使って、植える」という形で循環利用していくことで、先人たちが守ってきた豊かな森林を次世代に継承していくことが大きな課題となっている。こうした中、適切な経営管理が行われていない森林について、市町村が仲介役となり意欲と能力のある林業経営者への集積・集約化や市町村による公的管理を進める森林経営管理法が平成 31 年 4 月に施行される。また、市町村が実施する森林整備及びその促進に資する取組の財源として森林環境税（仮称）及び森林環境譲与税（仮称）が導入される。平成 31 年度は、これらの新制度や新税がスタートすることとなっている。

また、山村地域の豊かな森林資源が有する保健・文化・教育的機能を活かして、医療・福祉、観光・交流、教育・学習支援、余暇活動等の分野で、新たな森林の価値を積極的に引き出した森林空間の新たな利活用を通じた森と人とのかかわりを創り出す「森林サービス産業」の創出への期待が高まりつつある。

当森林共生フォーラムにおいては、以上のような森林をとりまく情勢も踏まえ、森林と人との共生に関する調査研究、情報の収集・提供等を行い、森林機能の増進、地域の振興・発展等に資するため、平成 31 年度の事業として、以下のとおり計画する。

1 研究会の開催

- (1) 通常総会開催時とともに、これまでの開催状況等を踏まえて 6 月、9 月及び 12 月を目途に開催する。
- (2) 具体的には、次のようなことをテーマとして検討し開催する。
 - 地球温暖化防止のための森林吸収源対策の推進について
 - 森林・林業・木材産業の再生に向けた取組について
 - 農山村地域の活性化に向けた取組について
 - 森林環境教育の推進について
 - 国有林野事業の推進について
 - 世界の森林・林業の動向等について
 - その他森林と人との共生に関することについて
- (3) 開催に当たっては、テーマを踏まえ、ホームページなどを通じて会員以外からの参加も募る。

2 現地研修会の開催

森林の総合的利用、地域資源を活用した取組、森林環境教育の推進等をテーマに、現地視察を中心に開催する。

3 情報の収集・提供等

(1) 情報の収集・提供

森林と人との共生に関わる新たな動向や情報の把握を行い、適時適切な情報の提供に努める。また、関連する資料等については、適宜配布する。

(2) ホームページの充実・活用

引き続きホームページの充実、更新等に努める。

4 その他

会員の確保・拡大等に努める。

II 平成31年度 収支予算 (案)

収支予算書 (一般会計)

平成31年1月1日から平成31年12月31日まで

(単位：円)

科 目	30年度予算額	31年度予算額	備 考
I 収入の部			
1 会費収入	1,000,000	980,000	団体8×100,000円 個人18人×10,000円
2 利子収入	1,000	1,000	預金利子
3 雑収入	15,000	15,000	研究会参加費ほか
当期収入合計(A)	1,016,000	996,000	
前期繰越収支差額	298,725	241,970	
収入合計(B)	1,314,725	1,237,970	
II 支出の部			
1 総会費	50,000	50,000	会場借料、懇親会、幹事会費
2 研究会費	265,000	265,000	会場借料、謝金、資料代、懇親会等
3 研修会費	75,000	60,000	全国研修会参加負担額
4 連絡通信費	85,000	85,000	印刷代、送料等
5 事務経費	540,000	540,000	事務委託費
6 雑費	2,000	2,000	手数料等
7 予備費	20,000	20,000	
当期支出合計(C)	1,037,000	1,022,000	
当期収支差額(A)-(C)	-21,000	-26,000	
次期繰越額(B)-(C)	277,725	215,970	

収支予算書 (基本金会計)

平成31年1月1日から平成31年12月31日まで

(単位：円)

科 目	予 算 額	備 考
I 収入の部		
入会金 (団体)	0	
入会金 (個人)	40,000	4名×10,000=40,000
合 計	40,000	

期末累計 (見込額) 9,400,000 (30年度末累計基本金9,360,000)